

慶應義塾大学  
論理と感性のグローバル研究センター

---

Global Centre for Advanced Research on Logic and Sensibility



## 論理と感性についての 国際的な研究拠点の形成を目指す



### 渡辺 茂

慶應義塾大学 大学院 社会学研究科 教授  
論理と感性のグローバル研究センター・センター長

慶應義塾では2002年より5年間、21世紀COE「心の解明に向けての統合的方法論構築」を行い、2007年より本年3月までグローバルCOE「論理と感性の先端的教育研究拠点」を実施しました。

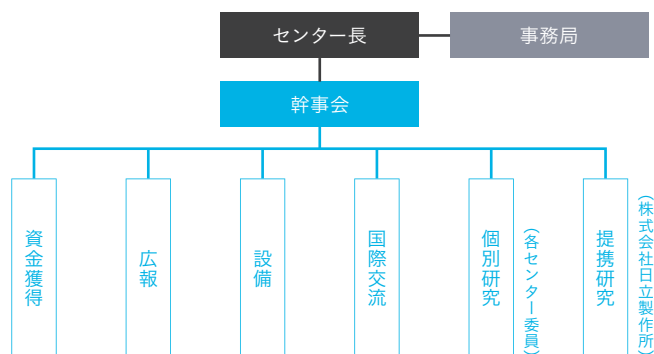
本センターはこれらの成果を踏まえて新たに論理と感性に関するグローバルな研究センターを設立するためのスタートアップを目的とするものです。これまでの21世紀COE、グローバルCOEを通じて大きく2つの進歩がありました。ひとつは分野融合的な研究の展開で研究科やキャンパスを越えて研究が行われました。

もうひとつは研究のグローバル化です。現在、パリ大学、エコール・ノルマル・シュペリユール、ウィーン大学、ビーレフェルト大学、ブダペスト大学（ローランド大学）、嘉泉大学、マッギル大学、南フロリダ大学などと研究協力協定を結んでいます。慶應義塾にはもうひとつ「人間知性研究センター」というものがあります。そこでは医学研究科を中心に分子生物学から人間のこころの解明に至る分野融合的研究を目指しています。

「論理と感性のグローバル研究センター」では社会学研究科、文学研究科を中心にやはり幅広い分野融合的研究が展開されることとなります。慶應義塾におけるこの二つの研究センターの協力は分野融合型研究の良いモデルを提供すると思えます。

人間の判断における論理と感性の問題は古くからの哲学的課題でしたが、現在の認知科学、神経科学の発展は、これを優れて分野融合的な課題にしています。また、この研究は基礎的な人間理解のみならず、今般の原発事故などにみられるような人間が何故そのように判断したのかという実践的な問いにも答え得るものであります。そこで、本センターは論理と感性についてのさらなる研究推進のため

- 1) 分野横断型の研究の推進
  - 2) 世界拠点としての研究センターの構築・維持
- を目的としています。



※センター長は2013年1月に岡田光弘(文学研究科 教授)に交代予定

### 書籍紹介

#### Emotions of Animals and Humans

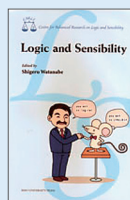
—Comparative Perspectives Series: The Science of the Mind 全英文



Watanabe, Shigeru; Kuczaj, Stan (Eds.). ISBN : 978-4-431-54122-6  
2012年8月、<http://www.springer.com/>

この本はグローバルCOEのシンポジウム参加者を中心にしてSpringer社から出版したもので、生物学者、心理学者、神経科学者からロボット工学者、哲学者、美学者まで幅広い分野の研究者が情動（感性）について論じたものである。情動の内容も単純な情動表出から、利他主義、愛さらには美的感性まで含む。情動研究の最前線を知るのに適した一冊である。

#### Logic and Sensibility 全英文



渡辺茂 (Ed), ISBN : 978-4-7664-1927-6  
2012年3月初版、慶應義塾大学出版会

人間にとって論理と感性とは？ 実験心理学から、教育学、古代哲学まで、世界的権威が多角的に考察する。5年間に亘るグローバルCOEの集大成で国内11名・国外19名の著者による。

## 教員

**渡辺 茂** (わたなべ しげる)

慶應義塾大学 文学部 教授・センター長

研究分野 実験心理学・神経科学・生物心理学

**安藤 寿康** (あんどう じゅこう)

慶應義塾大学 文学部 教授

研究分野 教育心理学・行動遺伝学

**伊東 裕司** (いとう ゆうじ)

慶應義塾大学 文学部 教授

研究分野 認知心理学・司法心理学

**岡田 光弘** (おかだ みつひろ)

慶應義塾大学 文学部 教授

研究分野 論理学・認識論・科学哲学

**遠山 公一** (とやま こういち)

慶應義塾大学 文学部 教授

研究分野 西洋美術史

**西脇 与作** (にしわき よさく)

慶應義塾大学 大学院 文学研究科 教授

研究分野 論理学・科学哲学

**宮坂 敬造** (みやさか けいぞう)

慶應義塾大学 文学部 教授

研究分野 人間科学・文化人類学

**山本 淳一** (やまもと じゅんいち)

慶應義塾大学 文学部 教授

研究分野 発達心理学・発達臨床心理学

**梅田 聡** (うめだ さとし)

慶應義塾大学 文学部 准教授

研究分野 認知心理学・神経心理学

**ERTL Wolfgang** (エートル・ヴォルフガング)

慶應義塾大学 文学部 准教授

研究分野 倫理学

**川畑 秀明** (かわばた ひであき)

慶應義塾大学 文学部 准教授

研究分野 心理学・神経科学・芸術科学

**後藤 文子** (ごとう ふみこ)

慶應義塾大学 文学部 准教授

研究分野 西洋美術史

**皆川 泰代** (みながわ やすよ)

慶應義塾大学 大学院 社会学研究科 特任准教授

研究分野 認知神経科学・心理言語学・発達心理学

## 研究員

**温 文** (おん ぶん)

常勤研究員

研究分野 認知心理学

**柴田 みどり** (しばた みどり)

非常勤研究員

研究分野 認知心理学・神経科学

**松尾 加代** (まつお かよ)

非常勤研究員

研究分野 認知心理学・社会認知心理学

**矢田部 清美** (やたべ きよみ)

非常勤研究員

研究分野 認知神経科学・生理心理学・発達心理学

## 共同研究員

**井口 かをり** (いぐち かをり)

研究分野 音楽人類学・民族音楽学

**伊澤 栄一** (いざわ えいいち)

研究分野 比較認知神経科学・動物行動学

**一方井 祐子** (いっかたい ゆうこ)

研究分野 生物心理学・動物行動学

**北原 義典** (きたはら よしのり)

研究分野 音声言語処理・人間行動科学

**是村 由佳** (これむら ゆか)

研究分野 応用行動分析学・情報科学

**染谷 芳明** (そめや よしあき)

研究分野 神経科学・核磁気共鳴医学・鍼灸学

**田谷 文彦** (たや ふみひこ)

研究分野 認知神経科学・神経経済学

**寺澤 悠理** (てらさわ ゆうり)

研究分野 認知神経科学・神経心理学

**照山 絢子** (てるやま じゅんこ)

研究分野 文化人類学・医療人類学

**平松 啓央** (ひらまつ あきひろ)

研究分野 近現代美術史・表象文化論

**星 聖子** (ほし せいこ)

研究分野 西洋美術史 (イタリア、ヴェネツィア)  
キリスト教美術・神経美学

**増田 早哉子** (ますだ さやこ)

研究分野 認知心理学・神経科学

**三宅 博子** (みやけ ひろこ)

研究分野 音楽療法・臨床音楽学

**Mohácsi Gergely** (モハーチ・ゲルゲイ)

研究分野 文化人類学・医療人類学・科学技術社会論

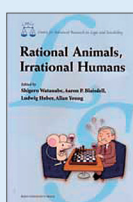
**山根 千明** (やまね ちあき)

研究分野 西洋近代美術史

2012年12月1日現在

詳しくはWebでご覧下さい  
[www.carls.keio.ac.jp/gcarls/](http://www.carls.keio.ac.jp/gcarls/)

### Rational Animals, Irrational Humans 全英文



渡辺茂, Aaron P. Blaisdell, Ludwig Huber, Allan Young (Eds)  
ISBN: 978-4-7664-1615-2, 2009年4月初版、慶應義塾大学出版会

グローバルCOEの第1回目の大型国際シンポジウムとして2008年に慶應義塾大学で開催された国際会議に基づくもので、4つの国際連携拠点から12名が筆者として名を連ねる。生物学者から文化人類学者まで幅広い研究者を集めて討議し、出版するというスタイルの最初の英文単行本。

### Future Trends in the Biology of Language 全英文



尾島司郎, 大津由紀雄, John F. Connolly, Guillaume Thierry (Eds)  
ISBN: 978-4-7664-1926-9, 2012年3月初版、慶應義塾大学出版会

言語は、人間と他の動物を分かつ認知機能の一つである。その意味で言語の研究は生物学に属する。本書は、慶應義塾大学「論理と感性の先端的教育研究拠点」の「言語の生物学」をテーマにした国際シンポジウム Future Trends in the Biology of Language (2011年3月開催) に基づいている。「生物学としての言語学」の現在と未来を描き出す。

慶應義塾大学・論理と感性のグローバル研究センター  
キックオフ・シンポジウム

「今、人間の論理と感性を考える」

2012年6月10日に本研究センターの発足に伴うシンポジウムが三田キャンパスで開催された。開会に際しては慶應義塾大学の「人間知性研究センター」を代表して岡野ジェームス洋尚、本センターと共同研究を行う日立製作所を代表して牧敦の両氏が祝辞を述べた。午前の第1セッションは「発達科学の統合的発展」として発達心理学、哲学、文化人類学の若手研究者が報告を行った。発達研究は今や複数の分野からなる超領域である発達科学を生み出しつつある。午後の第2セッションは「論理、経験科学」として、行動遺伝学、哲学、論理学の第一線の研究者が報告し、論理の経験科学としての面と規範科学としての面が議論された。第3セッションは「芸術と論理」で、本塾の美学を代表する教員による陰影研究、生活改革運動としての芸術運動の報告が行われ、さらにハンブルグ大学大学院在学中の若

手が色彩と空間についての報告を行った。最後の第4セッションは「古代と現代の認知」として認知考古学という新しい分野が紹介され、縄文土器の認知考古学的考察や実際に石器作成を行う実験考古学の成果が報告された。

キックオフに相応しい論理と感性の研究の幅広い展開が示されたことになるが、今後はこれらの問題意識、方法論の相互融合により論理と感性を中心テーマとした超分野的な研究センターを持続的に形成することが課題になろう。



Greeting Message

各国からのメッセージ

MESSAGE 1

from Prof. Allan Young, Ph.D.

McGILL UNIVERSITY  
Professor of Anthropology, Marjorie Bronfman Chair in Social Studies in Medicine

Over the weekend, I had reason to leaf through the several volumes that you have either edited or co-edited, and that are based on papers given at various conferences sponsored by the Centre for Advanced Research on Logic and Sensibility. It was only after scanning the tables of contents that I grasped the Centre's achievement. What impressed me most is the scope of this enterprise, bringing together so many international scholars and diverse but connected objects of inquiry.

For me personally, the achievement is a vindication of the Enlightenment vision of human nature – one in which 'nature' encompasses not only the psychobiological nature of humanity, but equally the non-humans that constitute our nature, figuratively and literally. As you know, my professional life has been devoted to investigating and interpreting the nexus of logic and sensibility. I am especially proud that my own talks at the Centre are included in two of these volumes.

With my best wishes,

Sincerely,

Allan Young

MESSAGE 2

from Prof. Edward A. Wasserman

The University of Iowa, USA

Human reason was claimed by Rene Descartes to be the "universal instrument" that permits us to act flexibly and adaptively to any contingency we may encounter. Such a self-aggrandizing claim does not accord well with the facts of human experience, where pollution, overpopulation, and warfare continue unabated. David Hume seems to have been better attuned to the nature of human nature when he argued that even causal reasoning is predicated on basic associative processes that we share with nonhuman animals. Given these dramatically discrepant orientations, it is altogether appropriate that Keio University should launch a new international center to better understand human judgment and decision making: the Global Research Center for Logic and Sensibility. I salute this important effort.

MESSAGE 3

from Prof. Ludwig Huber, PhD

University of Vienna  
Department of Cognitive Biology

I am very pleased to hear these exciting news and would like to congratulate you on the development of this new centre in Tokyo. This is again a very promising endeavor and at the right time. Reconsidering how we humans cope with tragedies like the one that happened in Japan last year is a very important and timely business. Only the best scientists around will have a chance to make significant progress. Success will critically depend on interdisciplinary collaboration. One discipline alone will quickly become stuck in their narrow approach to such a gigantic problem. Politicians and law people need to hear what cognitive scientists, among others, have to say if they want to improve. Invited by my friend Shigeru Watanabe, I had the chance to participate in the last "Global Research Center for Logic and Sensibility" and can confidently say that this project has a very high potential to make significant contributions again. Personally, I would like to express my gratitude, because it was one of the most exciting experiences in my scientific career. I very much enjoyed traveling to Japan (twice), meeting brilliant colleagues at Keio University and enjoying the inspiring atmosphere of the city and the country. Let me end with this phrase by Piet Hein: "The way to wisdom? Why, it's plain, and easy to express: to err, and err, and err again, but less, and less and less."

I wish you all the best for the future.

Ludwig

その他、以下の方々からのメッセージをいただきました。

Webでご覧になれます

Prof. Hans-Joachim Bischof  
Universität Bielefeld, Fakultät für Biologie  
Lehrstuhl für Verhaltensforschung

Prof. Toru Shimizu, Ph.D.  
University of South Florida  
Associate Chair and Professor of Psychology

Prof. Zang-Hee Cho, Ph.D.  
韓国 嘉泉医学大学神経科学研究所

Prof. Dominique Lestel, Ph.D.  
École Normale Supérieure, France

